

【樹木・草花の部屋】

フジ（マメ科マメ亜科属フジ連フジ属 Wisteria floribunda）

和名；フジ **別名**；ノダフジ(野田藤) **英名**；Japanese wisteria

マメ目 つる性落葉木本

原産地；日本 **花言葉**；歓迎、恋に酔う、陶醉 **花の色**；桃、青紫、白



← 写真－1 フジの樹形

撮影日：2013年5月5日

撮影場所：奈良市唐招提寺にて

撮影者：Mさん

唐招提寺のケイカ(瓊花)と並んで咲いていました。よく見かける花ですが、久しぶりにジックリと鑑賞することができました。北アメリカ、東アジア、日本に自生するフジ（ノダフジ）とヤマフジの2種が日本固有種で、中国でシナフジ、欧米でアメリカフジなどが栽培されているそうです。

ノダフジ（野田藤）の名は、この種が植物学者の牧野富太郎博士により命名されるきっかけとなった、フジの名所であった大阪市福島区野田にちなんだもの。

写真－2 フジの花 ⇒

撮影日：2013年5月5日

撮影場所：奈良市唐招提寺にて

撮影者：Mさん

花序は長くしだれて、20cm から 80cm に達する。花は紫色。1906年、同博士が、日本固有の藤は右巻きと左巻きの二種類があることから、総称としての藤と区別するため、つるが右巻きの藤（これは一般に花房が長く優雅な雰囲気がある）を「ノダフジ」または「フジ」と名付け、左巻きの藤（一般に花房が短くずんぐりとしている）を「ヤマフジ」または「ノフジ」と命名。同博士が日本のフジの標準和名をノダフジと決めた理由は、博士が住んでいた関東地方では、花房が長い藤を一般的に「野田藤」と呼んでいたため、ごく自然にそう名付けられたそうです。



【樹木・草花の部屋】



←写真→3 フジの花のアップ

撮影日：2013年5月5日

撮影場所：奈良市唐招提寺にて

撮影者：Mさん

＜ちょっと一言＞

夏の剪定は樹形の骨格を作ると同時に花芽をたくさん付けさせる目的で行う軽い剪定。

春から夏に伸びた枝の中で充実した短い枝に翌年の花芽を付けます。放任しておくにつるは勢いよく長伸、肝心の花芽が少なくなります。茎葉を伸ばす「栄養生長」が旺盛になると花や実を育てる「生殖生長」弱まるため。翌春咲く花芽が形成されるのは7月下旬から8月にかけて。伸びる勢いの強い枝があれば7月上旬頃につるの先端を切るか手で摘み取り、つるがそれ以上長く伸びないようにする。また、日光が十分株の内側まで当たるように、混み合った箇所があれば枝を切って整理。

冬の剪定は樹形をバランスよく整えるのが目的でこちらがメインの剪定。剪定は落葉期に行うのが基本。この時期には花芽と葉芽が肉眼で区別できます。花芽の方が葉芽に比べてふっくらと丸みのある形をしています。長く伸びすぎた枝や花芽の付いていない枝を切り、樹形を整えます。できるだけ花芽を多く残して枝を切るように……。ノダフジ系は花芽とは芽の区別がやや付きにくいので不安ならあまり大胆に切らない方がよいかも……。

春日大社(奈良市)の神苑には3系統、合計20種類約200本の藤の花があるそうです。

ノダフジ系統⇒砂ずりの藤・九尺藤・野田藤・野田長藤・口紅藤・新紅藤・本紅藤・八重黒龍藤・黒龍藤・長崎一歳藤・海老茶藤・白野田藤・熊野の長藤、山の神の藤

ヤマフジ系統⇒甲比丹藤・白甲比丹藤・昭和紅藤・岡山一歳藤・緋ちりめん藤。

シナフジ系統⇒麝香藤。

春日大社の砂ずりの藤は、春日大社境内の直会殿前に植えられている藤の古木(樹齢700年以上とも)のこと……。花房の長さが1m以上にもなると言われ、その藤の穂先が地面にすりそうなほど伸びるところから砂ずりの藤と呼ばれるようになったそうです。が、最近は花房の長さがかなり短くなってきたようです。衰えでしょうか？